付録３　新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（鳥取大学）

１．新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄
【情報基盤機構】 ○「鳥取大学オンライン授業技術情報ポータルサイトの構築」 ◆総合メディア基盤センターでは、e-LearningシステムをMoodleから令和元年度末にmanabaに変更して授業支援を行っている。
【財務部】 ○「感染対策物品の購入及び環境の整備」 ◆ 「新型コロナウイルス感染症対応」として、マスク（115,700枚）、手指消毒液（1,877ℓ）、微酸性次亜塩素酸水生成装置、消毒液備蓄のための危険物貯蔵庫（最大貯蔵量396ℓ×2棟）、サーマルカメラ、アクリルパーテーションの購入費等26,433千円を全学的に支援したほか、大学会館の第二食堂を改装するにあたり、感染症対策としてテイクアウトコーナーの新設および非接触型手洗器の更新費2,760千円を支援するなど、感染症拡大防止対策を適切に講じることで、学生・教職員が安心安全に教育研究活動および入試活動が実施できる環境を整備した。（令和2年度）
【研究推進機構】 ○「e-Learning による教育訓練の実施」 ◆研究基盤センターアイソトープ管理部門では、放射線業務従事者教育訓練の継続分を全学共通でe-Learningシステム（manaba）により実施した。 ◆先進医療研究センター動物実験施設とサステナブル・サイエンス研究センター動物実験施設では、動物実験に関する教育訓練をManabaを活用したe-Learning により実施した。
【教育支援・国際交流推進機構学生支援センター】 ○「修学上特別な配慮を希望する者への学習及び生活における実態調査の実施」 ◆「修学上の特別な配慮を希望する者の支援申請書」提出学生を対象に、「COVID-19対応による学習および生活における実態調査」を行った。対象学生に、対面もしくはGoogleフォームを使用してアンケートを実施した。
【教育支援・国際交流推進機構（学生部）】 ○「FD講演会の実施」 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習の質を維持するために、以下のとおりFD講演会を実施した。 ◆令和2年7月31日開催「令和2年度鳥取大学FD研修会」 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、本学においては遠隔教育が行われているが、 授業方法をさらに充実させるため、本学が所有する遠隔教育システム（PowerRecSS ）の活用に関するガイダンスを技術部職員により実施した。特に、オンライン授業での効果的なコンテンツの作成法や講義方法の検討を行い、 教授法の改善につなげることを目的に開催した。 ◆令和2年9月24日開催「令和2年度鳥取大学新任教員及び全学教員FD研修会」 新型感染症の社会的拡大に対応するため、本学において遠隔教育が行われており、これをさらに充実させるための教育事例報告を行い教授法の改善を促進することを目的に開催した。内容は、総合メディア基盤センター教員による、「 新入生に対するオンデマンド型授業での情報リテラシ教育の実施」、教育センター教員による、「語学教育（オンライン授業）におけるペアワークの実施」であった。
【教育支援・国際交流推進機構国際交流センター】 ○「語学強化コースのオンライン実施」 ◆語学強化コース（英語：初級、中級、上級）については前期も後期もオンラインにより実施した。前期のスペイン語コース（初級）は、令和2年度は応募者がいなかったため開講しなかった（令和元年度6名参加）。
【教育支援・国際交流推進機構国際交流センター】 ○「海外研修プログラムのオンライン実施」 1）オーストラリア　アデレード大学　オンライン英語プログラム 2）オーストラリア　アデレード大学　オンライン英語プログラム（3日間コース） 3）カナダ　ウォータールー大学 4）マレーシア　マラヤ大学　オンライン英語・文化学習・学生交流プログラム（1週間コース） 5）メキシコ　UABS大学　オンライン実践教育プログラム（4週間）
【地域学部】 ○「オンラインによる海外との交流会等の実施」 ◆韓国プログラム（第1回）：2021年1月18日、オンラインによる発表会打ち合わせ　（参加者：韓国慶熙大学　教員1名、学生3名、鳥取大学　教員1名、学生2名）。 ◆台湾プログラム：2021年1月21日、オンライン交流会（参加者：台湾高雄師範大学　教員1名、学生2名、通訳1名、鳥取大学　教員1名、学生8名）。成果等：交流イベントとして、互いの地域を紹介し合うプレゼンテーションを行った。リアルタイムの現地感覚や、中国語による交流の充実感など、参加学生の満足度は高く、留学をはじめさらなる学びへのモチベーションに繋がった。従来の現地調査と比べてもほぼ遜色のない効果が認められ、今後のオンラインによるプログラム運営の可能性を確認できた。 ◆韓国プログラム（第2回）：2021年2月23日（参加者：韓国慶熙大学　教員1名、学生3名、鳥取大学　教員1名、学生3名）。韓国と日本の学生がペアになってテーマを決め、互いの言語で発表する交流イベント。

【地域学部】
○「授業計画の大幅な見直し」
◆これまでの年度卒業生（約190名）の学習成果の自己認知に関するアンケート調査結果等を集計して、5項目（「授業の満足度」、「卒論・学生生活・福利厚生」、「学習成果の自己認知」、「関心の広がり」、「生涯学習力の形成状況」）を分析し、学生の満足度が全体として高い水準にあることを確認した。しかし、地域学への関心が相対的に薄いこと、地域学の成果を判定する基準の1つである「生涯学習力の形成状況」、とりわけ「主体的創造的関与力」の数値が相対的に低いことも明らかになった。この結果を踏まえて、2020年度の「地域学入門」と「地域学総説A・B・C」の授業計画を「主体的創造的関与力」を高める方向で作成した。しかしながら、新型コロナ禍のために授業計画を大幅に改めた。なお、経年変化を見るため、卒業時アンケートを従前と同様の項目で、2021年2月に実施（対象者179人、回答者37人、回答率21%）。

【医学部】
○「学部全体でI CT運用・サポートシステムの構築」
◆医学部では、オンラインシステム活用推進ワーキンググループを立ち上げ、学部全体でI CT運用・サポートシステムの構築を図った。具体的には、オンラインシステムのマニュアル作成（オンライン活用における著作権、個人情報などの問題点も含む）、医学部構内のWiFi Map作成、医学部におけるオンラインシステム利用実態の調査、大学院の教育・研究支援（Eラーニング、オンライン研究）、オンラインシステム利用推進セミナーの開催（FD、SD講演会（具体的活用事例の提示））、オンラインシステム利用サポート、オンラインシステム活用についての相談窓口の開設、オンラインシステム整備（モバイルWiFi、学内LAN、サテライト講義室）を行った。

【工学部】
○「コロナ禍における遠隔授業の履修状況や経済状況を調査する独自のアンケートの実施
・機械物理系学科の2年生の学級教員は、コロナ禍における遠隔授業の履修状況や経済状況を調査する独自のアンケートを2年生（対象者数：118名，回答者数:64名）を対象として2020.5.25に実施した（回答期限：2020.6.8）。未回答者の一部については、個別に呼び出して面談を行い、状況把握と指導を実施した。

【工学部】
○「学生向けオンデマンド講義練習の実施」
◆機械物理系学科・持続性社会創生科学研究科工学専攻機械宇宙工学コース・工学研究科機械宇宙工学専攻では、令和2年4月から講義が遠隔実施になることに伴い、学生が事前に遠隔講義を体験することで不安を少しでも解消すること並びに、教員がオンデマンド講義の実施への支障を無くすため、関係する全学生637名（学部510名、博士前期114名、博士後期13名）、教員34名、技術職員3名、学科事務室職員1名の計675名をmanabaに登録し、4月16日に「機械物理・機械宇宙オール」コースを開設した。オンデマンド授業の練習用動画では遠隔講義を受けるにあたって最低限必要と思われる説明を行い、それに関するアンケート、小テストを行った。この講義練習のアンケートには535名、小テストは529名が参加した。また、manabaのオールコースの掲示板に履修に関する質問や、1年生の自己紹介やオンライン昼食会・散歩イベントの告知、なんでも電話（ネット）相談室という企画が学級教員等により行われた。

【農学部】
○「教員向けオンラインシステムの利用講習会の実施」
◆新型コロナ対応のための教員向けオンラインシステムの利用講習を令和2年4月14日に実施し、4月20日にオンライン講義実施のためのFD研修を実施した。また、それに先立ち、オンライン講義で生じた諸問題を共有するチャットを開設し、農学部教職員で情報共有を行った。
◆教授会においてオンライン授業において使用するGoogle Meetの説明会を実施した。

【農学部】
○「実験室等の収容人数の見直し及び安全確保に向けた取組」
◆専門教育の実験・実習・演習で受講生を複数クラスに分け，実験室等の収容人数を減らして安全確保を行った上で実験・実習・演習を行った。

【農学部】
○「学生向け対面授業動画の配信の実施」
◆対面授業を録画し、復習のため学生に録画ファイルを配信した。
◆対面授業とオンライン授業の併用時に、学生の移動時間確保のため、オンライン授業の録画ファイルを一定期間学生へ配信した。

【農学部】
○「サテライト授業の実施」
◆受講生の人数の多い科目について、複数の講義室に学生を収容するため、対面授業と遠隔講義システムを利用した配信によりリアルタイムのサテライト授業を実施した。

【農学部】
○「鳥取大学新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動指針に基づく、授業実施方法の発信」
◆授業実施方針を制定し、学生向けに配布するとともに教員と共有した。

【連合農学研究科】
○「来日困難学生へのWebによる遠隔指導の実施」
◆新型コロナウイルス感染症の影響により来日困難な外国人留学生に対して、来日可能となるまでの間、個々の状況に応じて休学又はWEBによる遠隔指導等の対応を行っている。

【共同獣医学研究科】
○「岐阜大学との遠隔講義システムを用いた双方向のオンライン授業の実施」
◆研究科共通科目である「学際領域特別演習」及び「研究倫理・知的財産特論」を岐阜大学とともに遠隔講義システムを用いてリアルタイム双方向のオンライン授業として実施し、担当教員と学生間の意見交換が活発に行われた。

２．新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄
【学生部】 〇「新型コロナ感染症拡大に伴う，緊急給付型支援金の支給」 ◆新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、鳥取大学では、アルバイトなどの収入が激減して生活に困窮し、支援を必要としている学生のため、本学独自の「緊急給付型支援金」を支給（一人3万円）することを決定しました。（計843名）
【保健管理センター】 〇「コロナ禍における学生支援体制の強化」 1．相談体制等 ①　オンライン相談体制の整備 ◆入講制限下でも相談が継続できるよう、令和2年度からオンライン相談を実施している。その結果、帰省や休学等で面談を中断せざるを得なかった学生に対しての継続支援にもつながっている。 ②　相談窓口体制の整備 ◆令和2年度、保健管理センターHP上に 相談窓口“お問合せフォーム”を新たに設けた。電話・メール・対面での申し込みに加え、学生がアクセスしやすい窓口となっている。 ③　グループワークの拡充 ◆従来カウンセリング来所学生を対象に実施していたグループワーク・ソーシャルスキルトレーニングを、令和3年度、希望する学生を対象とした「コミュニケーションスキルトレーニング」に拡充して実施している。コロナ禍で対人交流機会が減少する中、学生生活や就職活動等で対人関係に不安を抱く学生に対し、コミュニケーションスキルを獲得する場を提供している。 ④健康診断問診票の活用 ◆令和2年4月、新入生健康診断は延期となったが（同年夏に実施）、健康診断問診票を回収・個別に確認し、心身の不調が推測される学生を抽出して健康相談・診察・カウンセリング等を行い、コロナ禍での学生支援につながった。令和3年度も、問診票を活用して、心身の不調が疑われる学生への対応を行っている。
【保健管理センター】 2．啓発活動等 ①　感染対策及び新型コロナウイルス感染症に関する情報発信 ◆学生が、正しい情報を迅速に得ることができ、正しい感染対策を実施でき、安心して学生生活が送れるよう、HP・manaba等で、感染予防対策や新型コロナウイルス感染症等に関する情報を発信している（令和2年1月～令和3年3月まで計22回）。 ◆感染予防対策を周知し新しい生活様式を普及させるために、学生部と協力し、学生が理解しやすく親しみが持てるオリジナルのポスター等資料を作成し、学内各箇所に掲示している。 ②　新型コロナウイルス感染症に関するＱ＆A ◆学生等から保健管理センターに寄せられた質問をまとめ、令和2年11月、鳥大版の「新型コロナウイルス感染症に関するＱ＆A」を作成し学生に周知した。12月には、学生部・総務企画部と協力し、学生を対象に理解度チェック（10問）を実施し正しい知識の定着を図った。Ｑ＆Aは、いつでも閲覧できるようHP上に欄を設け掲載している。
【保健管理センター】 3．不安への対処等 ①　セルフケア等 ◆コロナ禍で悪化が懸念されている学生のメンタルヘルス不調を予防するために、令和2年度、不安への対処法等セルフケアに関するオリジナルのパンフレットを作成し、学生に周知した。現在も、いつでも閲覧できるようHP上に欄を設け掲載している。 ②　学外相談窓口の周知 ◆大学での対応が困難な休日や夜間も学生が相談できるよう、自治体等が行っている相談事業についてHP掲載やリーフレットの配布等により周知する等、自治体等と連携している。
【保健管理センター】 4．その他 ①　感染対策物品の管理等 ◆感染拡大を防止し、学生が安心して活動できるよう、学内の感染対策物品を管理し、整備・配置している。また、体調確認のための非接触体温計や、換気の目安となる室内二酸化炭素モニター等の貸し出しを行っている。 ②　ワクチン ◆希望する学生が速やかにワクチン接種を行えるよう、令和3年度、鳥取大学におけるワクチン職域接種を、関係各部署と連携・協力して実施している。鳥大版の「新型コロナワクチンについてのQ&A（効果・副反応等について）」を作成し学生に周知し、学生のワクチンに対する不安（特に副反応）の軽減や、学生がワクチンに関する正しい知識を得て理解できるよう、対応している。
【教育支援・国際交流推進機構学生支援センター】 〇「オンライン面談、電話面談を導入」 ◆新型コロナ感染対策として、対面面談は緊急時を除き極力オンライン面談、電話面談を導入するなど学生の体調、移動歴などに応じて臨機応変に行った。
【教育支援・国際交流推進機構（学生部）】 〇「私費外国人留学生への経済的援助の実施」 ◆独立行政法人日本学生支援機構から新型コロナウイルス感染症対策助成金（1,200千円）の採択をうけ、新規渡日した私費外国人留学生（7人）の入国時の待機費用の一部に対する補助（315千円）及び経済的に困窮している私費外国人留学生（59人）に対する学生生活を送るための食費の一部に対する補助（885千円）を行った。

【教育支援・国際交流推進機構（学生部）】
◆高等教育修学支援新制度において私費外国人留学生（学部生）が国からの予算措置による授業料等の免除の対象外となったことにより、本学の独自予算（学長裁量経費）により令和2年度以降に入学する私費外国人留学生（学部生）の免除を行うために令和元年度に制定した「鳥取大学における私費外国人留学生に対する入学料の免除及び授業料の免除並びに徴収猶予に関する要項」について、令和元年度以前に入学した私費外国人留学生についても家計急変により経済的に困窮することとなった場合に授業料の減免を受けられるよう、令和2年9月に一部改正を行った。

【附属図書館】
○「自宅学修・研究に利用可能なWebサイトの作成」
◆自宅での学修や研究を支援するため、学外から利用可能なデータベース、電子ジャーナル、電子書籍の紹介や利用方法、ウェブセミナーの案内などをまとめたウェブページを作成し公開している。

【附属図書館】
○「図書館利用案内動画コンテンツの作成」
◆講習会・利用案内動画の公開図書館主催の講習会や図書館の利用案内についての動画コンテンツを作成し公開した。また「レポートの書き方講習会」の動画コンテンツは授業でも利用されている。

【地域学部】【医学部】【農学部】
○「遠隔授業に対応した学習環境の支援」
◆地域学部では遠隔授業に参加する学生の便宜のために利用できる空き教室一覧を掲示した。また、遠隔授業のWi-Fi環境が自宅にない学生に対して、アンケートに基づいて支援を行った。
◆医学部では、遠隔授業の開始にあたり、自宅でWeb接続が困難な場合の対応として、学内の受講できる場所を提供した。具体的には、所属する学部・専攻が指定する（生命科学科及び保健学科の1年生は学生部が指定する） 講義室で受講することとした。
◆農学部生命環境農学科では，自宅にオンライン講義受講環境がない学生を対象に，オンライン講義受講用の講義室を準備し，学生の教育環境充実に取り組んだ。また、共同獣医学科では、自宅にオンライン講義受講環境がない学生を対象にオンライン講義を受講できる環境として実習室の利用を周知した。さらには、ビデオカメラ、マイクスピーカー等、オンライン環境に対応するための機器を購入した。

【医学部】
○「授業料の納付期限の延長」
◆新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、主に学生の学資を負担している保護者等の経済状況が変化することが予想されたため、すべての学部生・大学院生を対象として、令和2年度前期分授業料の納付期限を8月末に延期した。

【医学部】【農学部】
○「新入生チューター会、オンライン面談の実施」
◆医学部では、緊急事態宣言発令時にオンライン授業となった際、新入生の不安を取り除くために「チューター会」を開催（チューター班学生（15名ずつ）と学級教員、学科長）し、学習面や生活面での相談対応を行った。また、医学教育学教員による個別の学習相談について、オンライン面談を行った。
◆農学部では、オンラインによるチューター及び学級教員による面談を、例年よりも回数をを多く実施し、学生の健康状態を把握した。

【工学部】【農学部】
○「就職活動用のWebによる 面接室の設置」
◆工学部ではコロナ禍に対応して就職活動用のWebによる 面接室を6室（キャリアセンター主導4室、工学部独自2室）を整備した。
◆農学部では、就職活動におけるweb面接のための設備を整備し、居室を学生へ提供した。

【工学部】
○「工学部育英基金による援助の実施」
◆工学部では、新型コロナウイルス感染症の影響により生活費（特に食費）に困っている学生に対して、工学部育英基金により鳥取大学生協で使える食事券3,000円分を令和2年5月22日～28日の間、500名に支援を行った。

【農学部】
○「アルバイト雇用による生活支援」
◆農学部では、生活支援のため清掃業務に係る学生アルバイトを募集し、従事者に給与を支給した。

【共同獣医学研究科】
○「遠隔講義システムの運用拡大」
◆学習の支援としてオンデマンド授業あるいは遠隔システム（Webex）によるオンライン授業を実施した。遠隔システムは当初「共同獣医学研究科における社会人大学院生に対する教育方法の改善」事業として学長裁量経費（教育推進経費）により整備したものであるが、新型コロナウイルス感染症に対応して、一般学生にも用途を拡大した。